

人文科学研究所研究叢書

44.『カトリックと文化 出会い・受容・変容』

2008年3月10日発行

中央大学人文科学研究所 編 中央大学出版部発行

本体価格5,700円（税別）

ISBN 978-4-8057-5333-0

カトリック史における異文化の受容と変容について —前書きにかえて—	
第 I 部	
カトリックにおけるマリア観	熊田 陽一郎
戦後のドイツ・カトリック教会の状況 —一九六〇—七〇年代を中心に	シェーパース・ゲアハート
カトリックの典礼音楽に見る東西文化の融合	新垣 壬敏
第 II 部	
インド・ケーララ州の「聖トマス・キリスト教徒」 —「聖トマスの道」と「聖ペドロの道」	高橋 英海
フランシスコ・ザビエルのコミュニケーション原理の先進性について	吉村 謙輔
外交史料集『通航一覧続編』の特質 —フォルカード神父来琉記事の側面から	木崎 弘美
奉教士人王徴 —東林派と天主教	葛谷 登
旧韓末における朝鮮のカトリック	李 熒娘
エレン・ケイ、本間久雄、そして米沢におけるキリスト教の普及	平田 耀子
日本に悪い子はいない —フラナガン神父の日本訪問—	今 まど子
第 III 部	
日本を題材にしたイエズス会劇	竹中 昌宏
不条理、そしてそれを超えるもの —シュティフターの『曾祖父の書類綴じ』を中心に—	戸口 日出夫
イエイツの「動揺」 —カトリシズムへの誘いと拒絶—	三好 みゆき
回心のフォルム —李家同の文体—	山本 明